

左端大項目ごとにインデックスが付けてあります。
色塗りの項目ごとで資料が添付してあります。

1 計画構成確認

2 30年後の目指す姿

3 10年後の目指す姿

4 重点化パッケージ
概略

(1) 人口

① 長期人口

② 転入・転出分析

(2) 特性整理

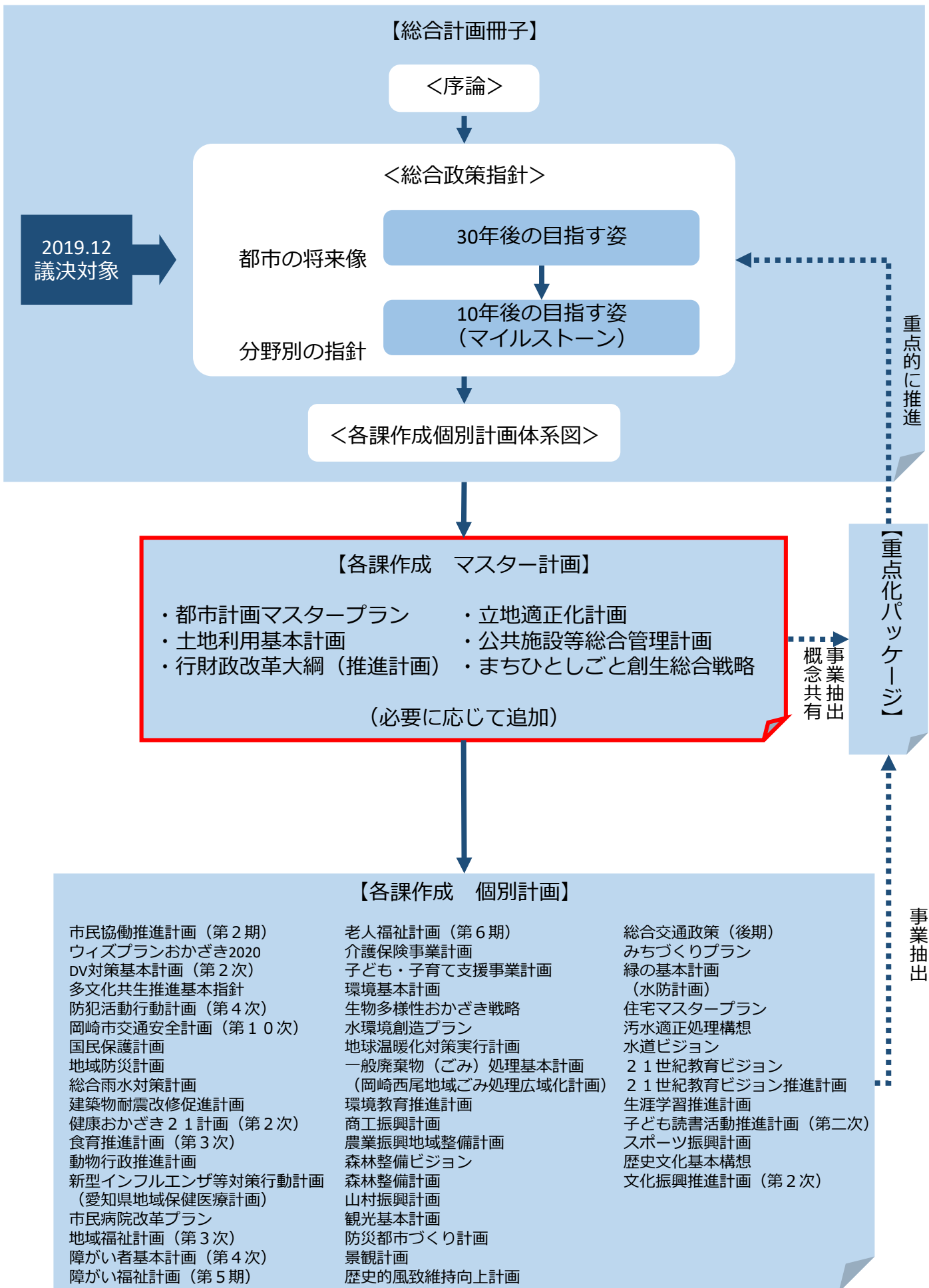
① 日本における
西三河

② 西三河における
岡崎市

(3) 各ご意見

① WEBアンケート

② 高校生・各団体等



【岡崎市をとりまく様々な状況（前回・今回の各資料より）】

<前回資料>

- ✓ 人口推計ピーク2035年
- ✓ 人口推計2020年と2050年の総人口はほぼ同じ
- ✓ 将来は前期高齢者も支える側になる推論
- ✓ 独居老人増加だが、**三世代同居近居は中核市1位**
- ✓ 国が様々な将来の姿を提示
- ✓ **中核市比較で観光に伸びしろあり**
- ✓ 市民意識調査結果からライフステージ毎の視点の必要性
- ✓ 過去12年間の振り返り

<今回資料（次頁以降に添付）>

- ✓ 長期人口の年齢構成は2070年から概ね一定
- ✓ 社会移動の転入超過は外国人の影響あり
- ✓ 日本における西三河
強い製造業、減らない将来人口、高い出生率
強い財政力、高い所得水準、安くて広い住宅
- ✓ 西三河における岡崎
人口規模豊田と並び大、**若者流入比率高め、**
就住比高、専業主婦率高、
小売業商品販売額高、小売業売り場総面積大、
産業別従業員割合バランス、本線駅の数多、
国県行政機関多、自治会加入率高、
人口あたり犯罪件数少、病床数中、県水少
- ✓ WEBアンケート
暮らしのまちとしておすすめ
- ✓ 各ご意見
高校生概ね3/4が思い描く将来の生活は岡崎で
各審議会等 住みよい社会の実現を
不動産事業者 **岡崎市の土地は買い得感あり**

想像してみてください。

岡崎市を1軒の住宅と考えました。

- 39万市民だけでなく、市の中心から半径10kmの範囲に住む概ね50万人はこの家に暮らす家族です。
- 家ですから、もちろん丈夫で長持ち。
- 耐震性能、環境性能、防犯性能などを備える安心設計。
- 家はきれいだけど、実は先祖代々から続く歴史あるお宅。

オープンリビングってなに？

- リビングと玄関に間仕切りがなく、リビングに大きな掃き出し窓があり、1階室内と庭先が一体的に使える間取りのこと。
- 家族のコミュニケーションがとりやすく、開放的で採光性にも優れる。

家族が思い思いに過ごせるリビングは・・・

- 家族が自然に集まってきて賑やかに楽しい時間が過ごせる空間
- リラックスしてくつろげる空間
- 美味しいコーヒーや食事ができるダイニングと隣合わせの空間
- 庭先と一体になって自然を感じられる空間
- 玄関スペースと一体になって動線もばっちりの空間
- お客様(西三河、県内、国内、海外)をお迎えし、おもてなしする空間

リビングに集まる家族、それぞれの部屋

- 2階には、家族それぞれが暮らす大小様々な部屋があり・・・
- 用途に応じてベランダ、手洗いなどの必要な機能が概ね揃っています。
- 各室の配置や、廊下などの動線にも不自由は少なく。
- もちろん、リビングにも気軽に降りてくれます。
- 書斎（職場）では、お仕事もはかどります。

【30年後の目指す姿を象徴的に表すことば】

オープン・リビング都市

【30年後の目指す姿を具体的に説明する文章】

<日本の目指す社会状況>

- 国全体で少子高齢・人口減少が進む中、リニア開通によるスーパーメガリージョン形成と、東京一極集中の是正にむけた取り組みが進んでいる。
- 各県で中枢機能を担う市が周辺市と役割分担をしながら、地方の持続可能なまちを形成している。

<岡崎市の目指す姿>

- 国内屈指の製造業拠点である西三河において、既存行政機能の集積や、さらなる商業機能の集積をもって、暮らしの中核中核都市（オープンリビング都市）としての役割を担っている。
- その前提として、西三河自治体や各事業者との連携により、各産業の活性化と強靱化が図られている。

<取り組みの方向性>

リニア開通や名古屋三河道路の開通など、社会的インパクトの大きい事業の完成時期を視野に入れて。

歴史観光まちづくりによる**観光産業都市化の延長線上に商業機能の集積**を見据え、岡崎市民や周辺市民の**暮らしを支える持続可能なまち**へと再生していく取組みを推進する。

新産業開拓や業態転換による持続可能な産業構造の構築を見据え、これに積極的に挑戦する事業者を支援する取組みを推進する。

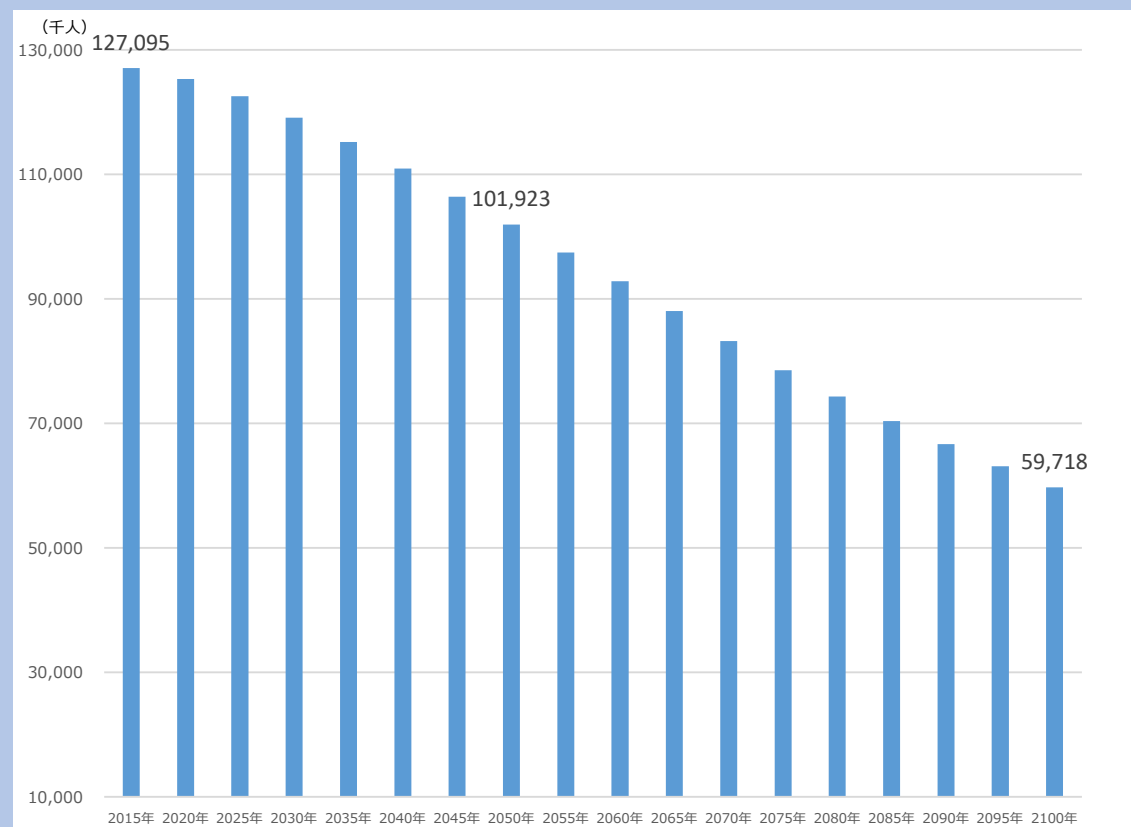
- 健康寿命の延伸をもって、生産年齢人口の減少を補ってあまりある**高齢者の活躍**を推進する。
- 多様な働き方の構築・定着をもって、潜在的な労働市場の掘り起こしを行い、**女性の活躍**を推進する。

- これからの30年間における、人口微増と微減を背景とする**コンパクトシティ**化を念頭に、必要な投資を行っていく。
- 民間事業者が担える分野は民間主体で、民間参入が見込みにくい分野は**公民連携**や公共主体への転換を図っていく。（公公民従から民主公従へ）
- 日本屈指のものづくり産業と、そこで生活する市民の暮らしを支える商業を、災害から守る**産業レジリエンスの確保**を西三河圏域で図っていく。

※前提条件となる時代潮流や政策効果を加味した将来の生残率やこども女性比が2045年までしか公開されていないため、2050年以降の推計については、2045年までの数値をもとに算出した値で固定して推計を行っている。

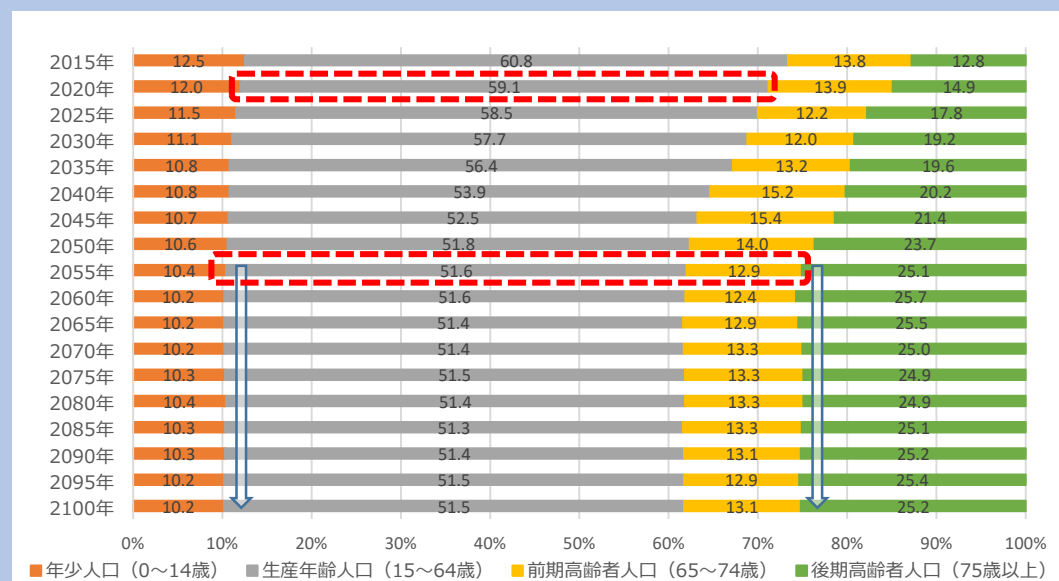
【日本の長期人口】

- 日本の人口は2008年をピークに減少に転じており、2050年には1億192万人、2100年には5,972万人と現在の人口の半分以下に減少する見込みである。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口（平成29年推計）」より作成

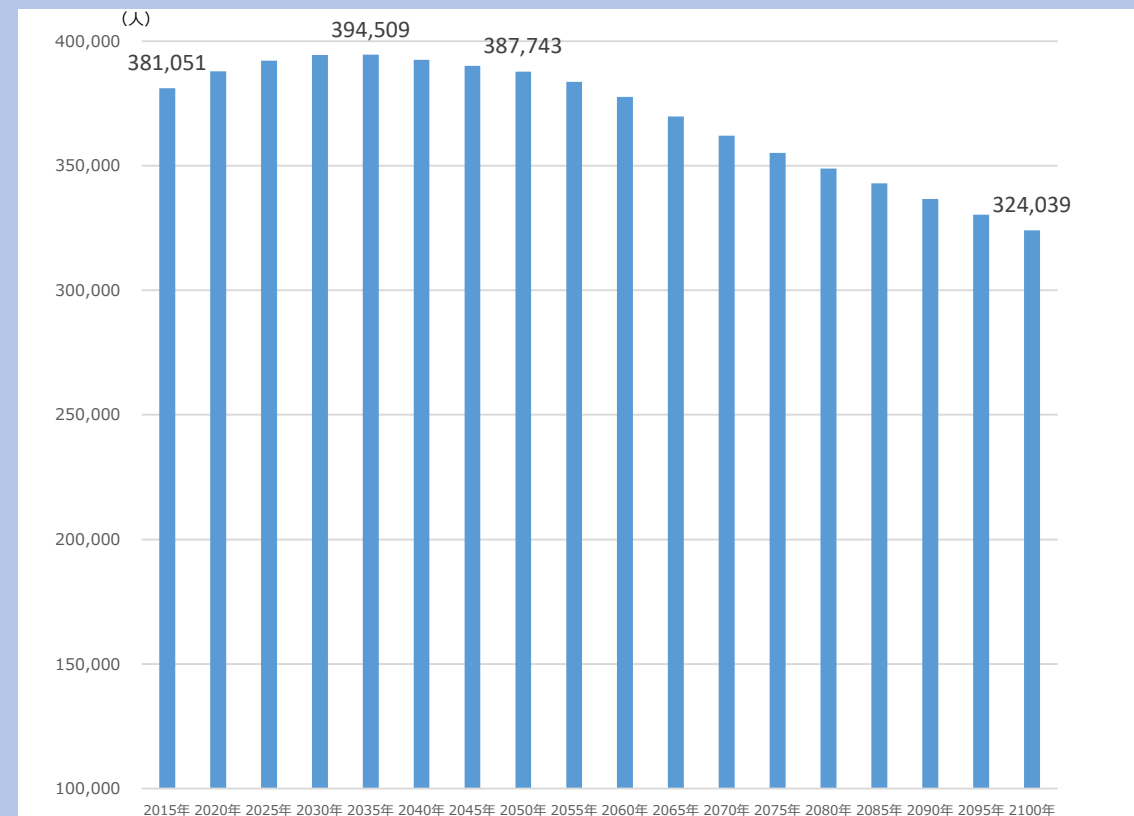
- 年齢4区分別の年齢構成をみると、今後2050年から2055年ごろまでは年少人口と生産年齢人口の割合は減少し、前期高齢者及び後期高齢者人口の割合は増加する。2055年以降はどの区分も増減があまりなくなり、ほぼ一定の割合で推移していく見込みである。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口（平成29年推計）」より作成

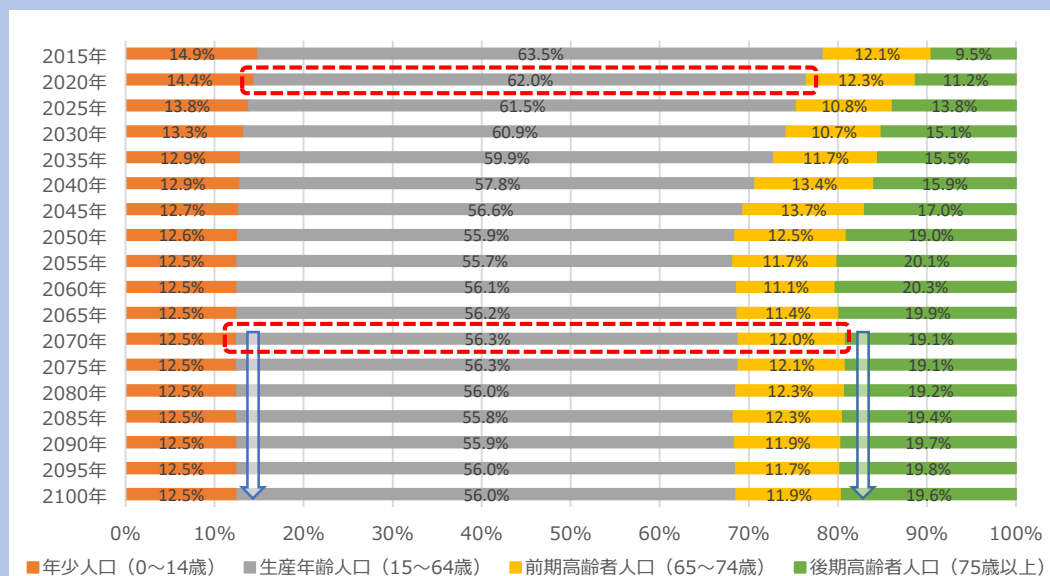
【岡崎市の長期人口】

- 岡崎市の人口は2035年までは増加するが、その後緩やかに減少する見込みで、2050年には現在の人口とほぼ同じ38万7千人、2100年には32万4千人となる見込みである。



出典：総務省「国政調査（2015）」をもとに企画課推計

- 年齢4区分別の年齢構成をみると、岡崎市は2070年以降に人口構成割合がほぼ一定となる見込みである。
- 全国推計と比較すると、年少人口及び生産年齢人口は全国より高い割合で一定となり、前期及び後期高齢者人口は低い割合で一定となる。

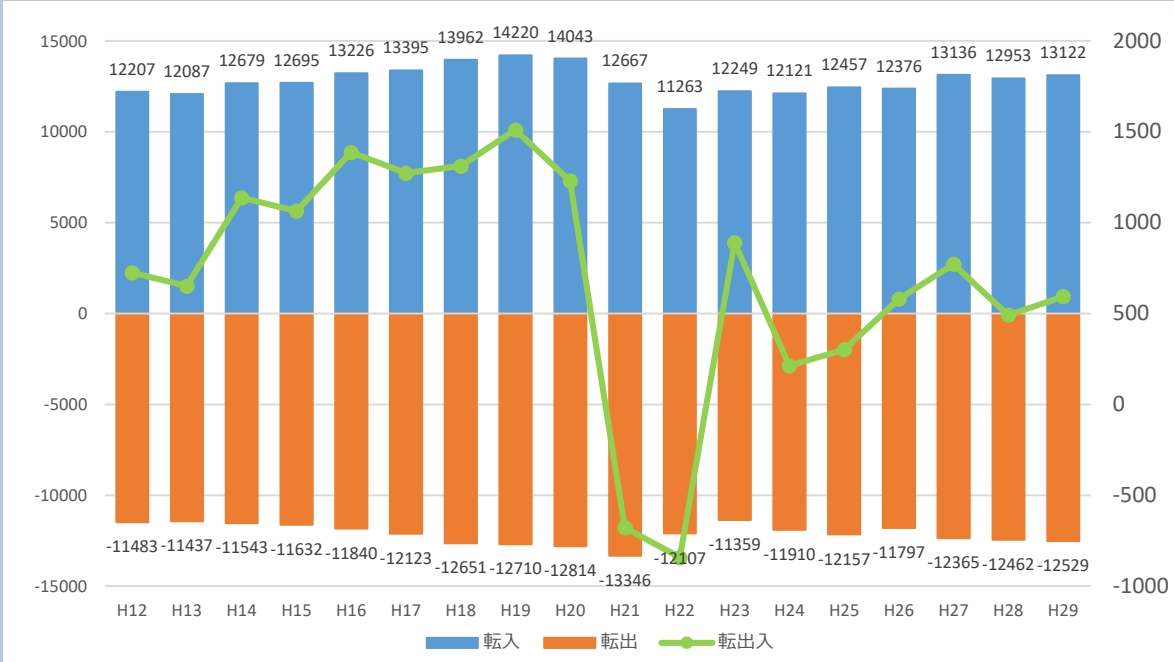


出典：総務省「国政調査（2015）」をもとに企画課推計

【年次推移】

- 社会増減をみると、リーマンショックの影響を受けた2009年と2010年を除き、転入超過で推移してきている。
- 近年は転入・転出者数ともに緩やかに増加しており、リーマンショック以前の水準にはまだ戻っていないものの、**地域の活性化により人の移動が活発に行われている状況がうかがえる。**

転入・転出者の推移



出典：岡崎市「人口・世帯数・人口動態（各月1日現在）」より作成

【性別】

転入者（上段）及び転出者（下段）の男女構成割合

転入	岡崎市	碧南市	刈谷市	豊田市	安城市	西尾市	知立市	高浜市	みよし市	幸田町
男	58.80%	58.85%	60.41%	64.29%	57.99%	58.89%	62.16%	59.67%	58.05%	55.52%
女	41.20%	41.15%	39.59%	35.71%	42.01%	41.11%	37.84%	40.33%	41.95%	44.48%

転出	岡崎市	碧南市	刈谷市	豊田市	安城市	西尾市	知立市	高浜市	みよし市	幸田町
男	57.22%	57.35%	60.61%	61.56%	57.61%	57.18%	59.93%	60.10%	57.19%	54.01%
女	42.78%	42.65%	39.39%	38.44%	42.39%	42.82%	40.07%	39.90%	42.81%	45.99%

出典：総務省「人口移動報告（2015～2017）」より作成

- 転入及び転出の男女の構成比をみると、西三河全市において男性の比率が高く、特に工場が多くある市はより高い傾向にある。

【年齢】

転入者（上段）及び転出者（下段）の年齢構成割合

転入	岡崎市	碧南市	刈谷市	豊田市	安城市	西尾市	知立市	高浜市	みよし市	幸田町
0～9歳	10.30%	10.70%	8.20%	7.90%	9.90%	11.50%	7.80%	10.60%	10.70%	12.50%
10～19歳	4.50%	6.90%	9.60%	13.00%	7.90%	7.00%	6.70%	5.80%	4.80%	5.60%
20～29歳	39.40%	38.90%	42.90%	41.30%	39.30%	38.10%	43.00%	39.40%	39.90%	35.60%
30～39歳	25.80%	23.80%	23.50%	22.20%	25.20%	24.10%	24.70%	24.40%	24.80%	27.10%
40～49歳	11.40%	10.10%	8.50%	8.60%	9.30%	9.80%	10.30%	10.50%	10.20%	8.90%
50～59歳	4.20%	4.20%	3.20%	3.00%	3.80%	4.20%	3.60%	4.10%	4.50%	3.60%
60歳以上	4.40%	5.30%	4.10%	3.90%	4.60%	5.20%	4.00%	5.20%	5.10%	6.70%

転出	岡崎市	碧南市	刈谷市	豊田市	安城市	西尾市	知立市	高浜市	みよし市	幸田町
0～9歳	11.50%	9.60%	12.30%	9.60%	12.30%	8.50%	11.40%	10.10%	12.20%	12.00%
10～19歳	5.30%	6.30%	5.60%	5.90%	5.60%	6.30%	7.10%	4.80%	5.80%	5.90%
20～29歳	36.20%	39.70%	38.20%	41.30%	36.70%	44.60%	34.50%	40.00%	34.40%	36.30%
30～39歳	25.80%	23.30%	27.20%	24.80%	25.80%	22.50%	27.50%	24.30%	26.80%	28.20%
40～49歳	11.00%	10.60%	9.10%	9.50%	10.20%	9.50%	10.20%	10.60%	10.70%	8.90%
50～59歳	5.00%	4.80%	3.70%	3.80%	4.50%	3.80%	4.30%	4.30%	5.40%	3.60%
60歳以上	5.00%	5.70%	3.90%	5.10%	4.80%	4.80%	5.00%	5.80%	4.60%	5.00%

出典：総務省「人口移動報告（2015～2017）」より作成

- 年代の構成比をみると、西三河全市において20～39歳の世代が転入・転出のボリュームゾーンとなっている。
- 岡崎市は西三河の他市と比べると10～19歳の世代が少なく、40～49歳の世代が多い。

【移動先・移動元】

- 社会移動の状況を年齢別、地域別にみると、県内では男女ともほとんどの世代において、幸田町及び名古屋市への転出超過の傾向がみられる。また、県外では主に東京への転出超過がみられる。
- 男女とも働き盛りの20～49歳の世代が転入超過であり、そのほかの世代は転出超過となっている。
- 女性は転入超過ではあるものの、男性の状況に比べ非常に少ないため、**いかに女性を呼び込むかが今後の課題となってくる。**

年齢別地域別移動状況（左：男性 右：女性）

転入・転出	男	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
愛知県内	豊田市	14	-12	164	86	22	0	9	282
	安城市	14	-2	31	19	7	8	10	88
	刈谷市	9	7	20	9	-0	3	0	47
	西尾市	-15	2	34	9	2	-3	-2	25
	知立市	4	2	5	10	-3	2	-2	18
	碧南市	-3	1	12	-2	3	0	-0	11
	みよし市	0	-0	-0	-0	4	-1	0	2
	高浜市	-3	0	0	0	0	0	-1	-3
	幸田町	-18	-3	-23	-25	-10	-4	-8	-91
	名古屋市	4	-13	-28	-32	-6	-11	-16	-103
	県内その他	-3	10	78	7	35	-11	-11	105
	愛知県内計	2	-8	294	80	53	-17	-22	381
愛知県外	三重県	-6	14	21	1	3	-2	1	31
	岐阜県	-3	2	24	-0	1	-0	-1	24
	静岡県	-5	-2	15	4	9	-1	2	22
	大阪府	-0	-3	15	3	-2	-3	1	11
	神奈川県	-8	-7	-4	4	1	0	2	-13
	東京都	-2	-25	-63	10	-5	-3	2	-85
	県外その他	-27	-11	129	10	22	-14	-11	97
	愛知県外計	-51	-32	137	32	29	-24	-4	87
計	-49	-40	431	112	82	-41	-27	468	

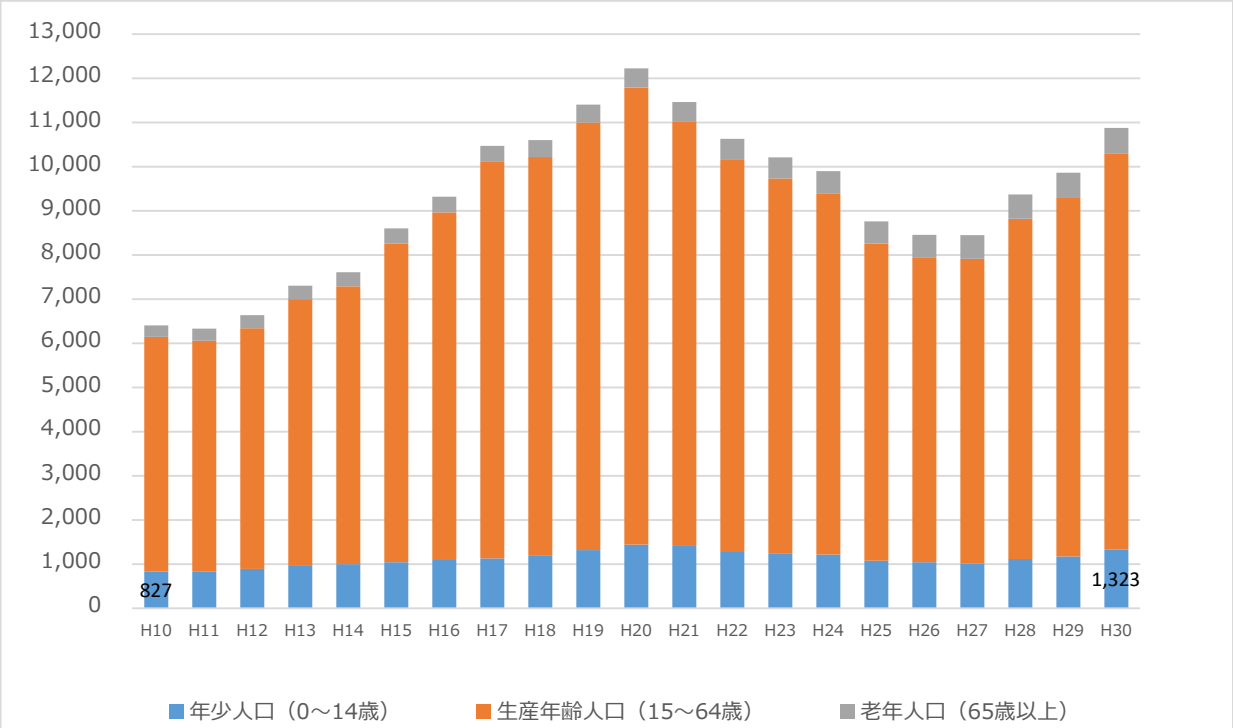
転入・転出 女		0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計	
愛知県内	豊田市	21	2	49	26	18	3	8	127	
	安城市	12		1	5	10	2	1	-6	26
	知立市	5	1	11	3	-2	2	-1	20	
	みよし市	-2	0	2	5	0	2	-1	6	
	刈谷市	3	1	-12	3	2	2	1	-1	
	碧南市	-1	0	-0	-1	-1	1	-2	-4	
	高浜市	0	1	-2	-3	0	-0	-0	-4	
	西尾市	-14	-0	8	-1	4	-1	-6	-10	
	幸田町	-21	-4	-12	-14	-2	-5	-15	-72	
	名古屋市	-5	-8	-60	-20	-14	-13	-12	-132	
	県内その他	-2	6	79	8	13	-2	-4	97	
	愛知県内計	-2	-0	68	16	20	-12	-37	53	
愛知県外	岐阜県	-7	1	30	2	-1	1	1	27	
	三重県	1	-2	15	5	4	-1	3	26	
	静岡県	2	7	12	-4	2	-2	-1	16	
	神奈川県	4	1	-13	-3	0	1	-1	-11	
	大阪府	-2	-6	-8	0	-0	-3	2	-17	
	東京都	-2	-24	-69	-4	-11	-3	1	-113	
	県外その他	-28	-10	85	-3	-4	-7	11	45	
	愛知県外計	-32	-33	52	-6	-10	-13	16	-27	
	計	-34	-34	120	10	9	-25	-21	26	

出典：総務省「人口移動報告（2015～2017）」より作成

【外国人】

- 外国人の人口は、平成20年のリーマンショック以降減少傾向にあったが、近年回復してきており、平成30年には再び10,000人を超える外国人が岡崎市に居住している。
- また外国人の年少人口も平成10年（827人）から平成30年（1,323人）にかけて約1.6倍に増加しており、**地域社会や教育の場において外国人子弟の受け入れ体制が課題となっている。**

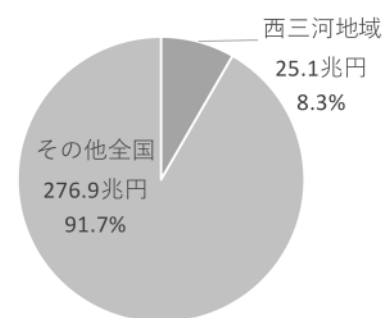
外国人人口の推移



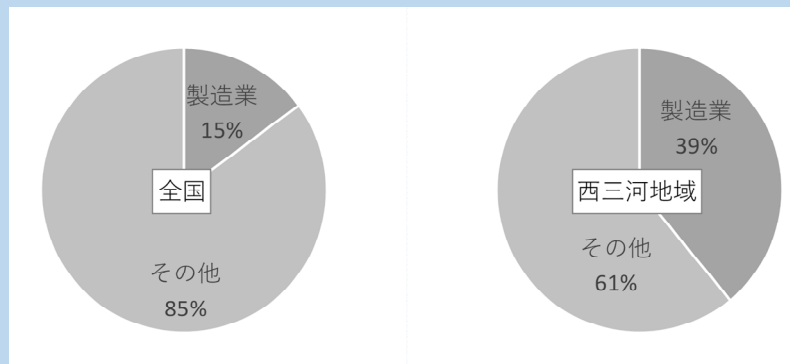
出典：岡崎市「人口ピラミッド」より作成

【製造業】

製造品出荷額の全国シェア



製造業従業者数のシェア

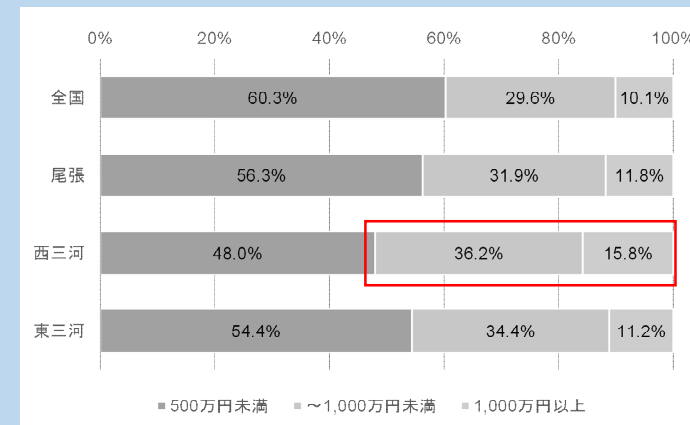


- 西三河の年間25兆円は、全国の8.3%を占める
- 県単位で2番目の神奈川県15兆円を上回る規模
- 全国の製造業従業者は全体の15%だが、西三河では約4割にのぼる。

出典：経済産業省「工業統計（2016年値）」、総務省「経済センサス（2016年）」より作成

【所得水準】

収入別の世帯比率

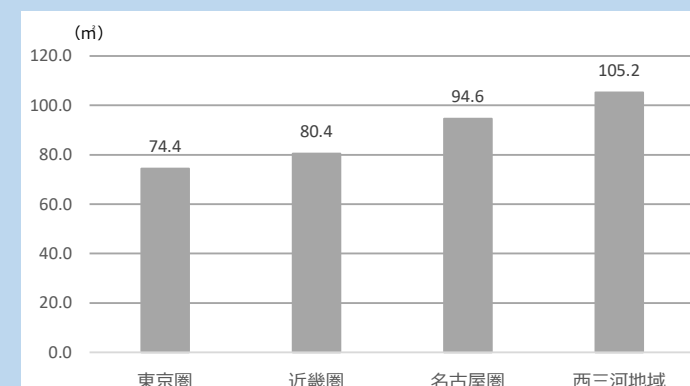


- 西三河の年収500万円以上の世帯比率は50%を超えており、全国や県内他地域の水準を大きく上回る。
- 年収500万円以上、年収1,000万円以上の比率は、全国と比べてそれぞれ5%以上上回っている。

出典：総務省「平成29年就業構造基本調査（2017年）」より作成

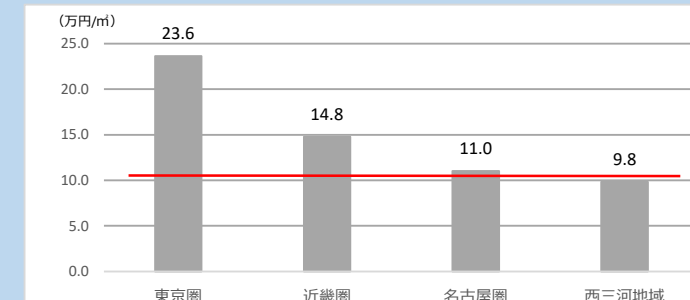
【住宅事情】

1 住宅当たり延べ面積



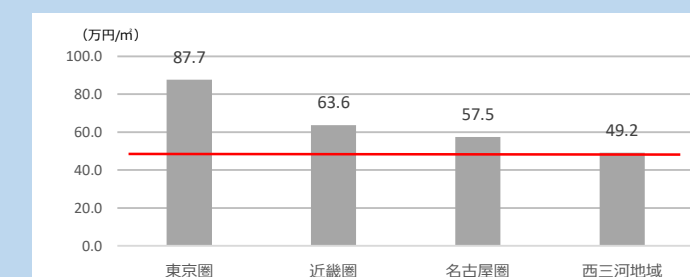
- 1 住宅当たりの延べ面積では、各圏域と比較して西三河が最も広くなっている。
- 西三河は東京圏に比べて約1.4倍、近畿圏とは約1.3倍、名古屋圏とは1.1倍以上となっている。

単位面積当たり住宅用地価格



- 単位面積当たり住宅用地価格では、各圏域と比較して西三河が最も安価となっている。
- 東京圏は西三河の2倍以上、近畿圏は約1.5倍、名古屋圏は1.1倍以上となっている。

単位面積当たりマンション価格

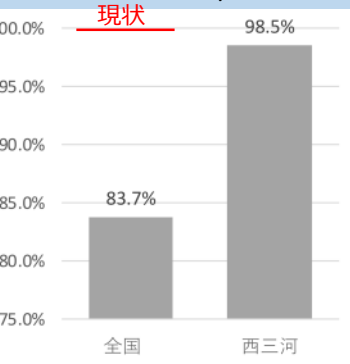


- 単位面積当たりのマンション価格では、各圏域と比較して西三河が最も安価となっている。
- 東京圏は西三河の約1.8倍、近畿圏は約1.3倍、名古屋圏は1.2倍となっている。

出典：総務省「住宅・土地統計調査（2013年）」、国土交通省「平成30年都道府県地価調査」、東京カンテイ「一戸建て住宅データ白書（2018年5月7日）」より作成

【人口関係】

人口変化（2045/2015）



- 2045年比では全国16.3%減に対し、西三河はほぼ現状並の1.5%減

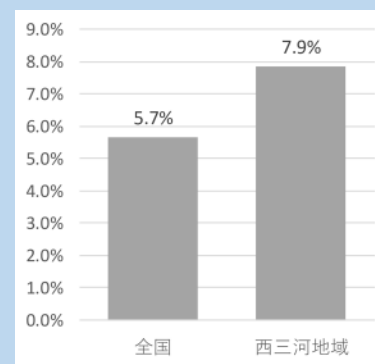
合計特殊出生率



- 西三河1.72は、国が2025年に目指す1.8と、現状ですでに乖離が小さい

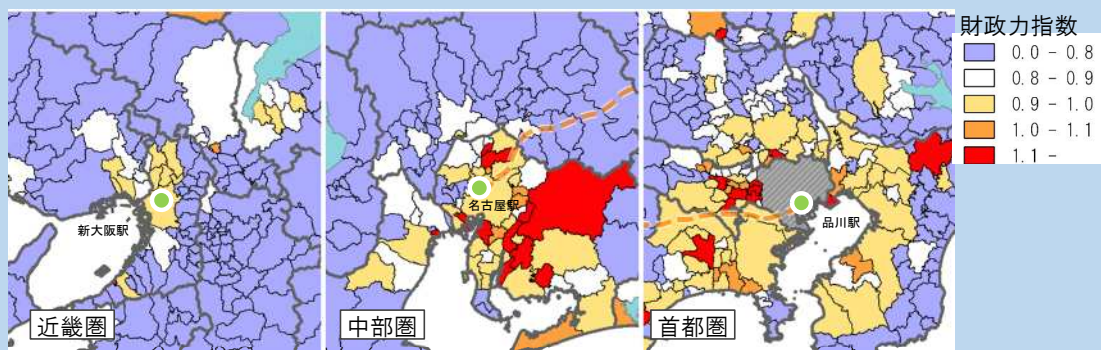
出典：総務省「国勢調査（2015）」、厚生労働省「平成20～24年 人口動態保健所・市区町村別統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」より作成

3 世代世帯比率



- 西三河7.9%は、全国5.7%を上回る。

【自治体財政】



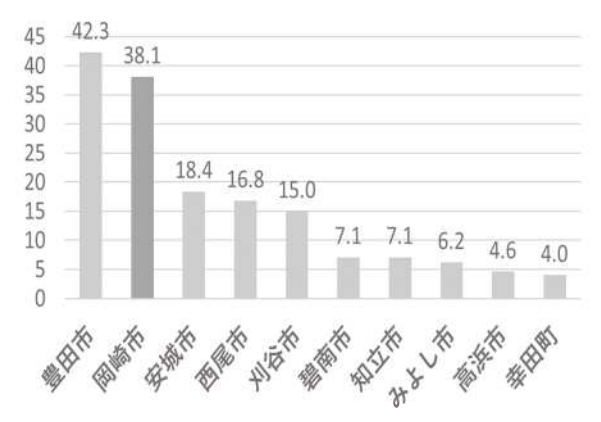
【財政力指数】 地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きくなり、財源に余裕があるといえる。1.0以上の地方公共団体は地方交付税交付金の不交付団体となる。東京都特別区については、算出方法が異なるために比較できない。

- 強い製造業、産業を支える人口により、首都圏・近畿圏や中部圏内部で比較しても、西三河は財政力の高い自治体が多い。

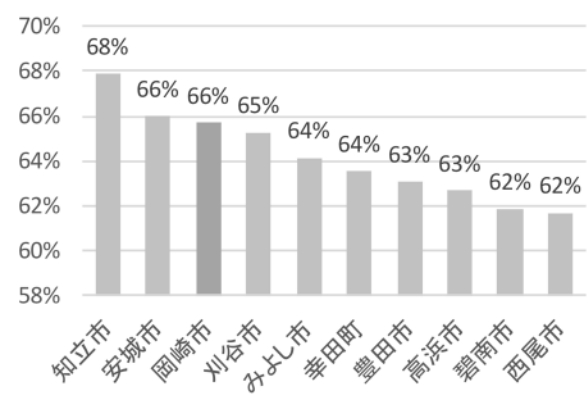
出典：総務省「市町別決算状況調（2016年度）」より作成

【人口】

人口規模（万人）



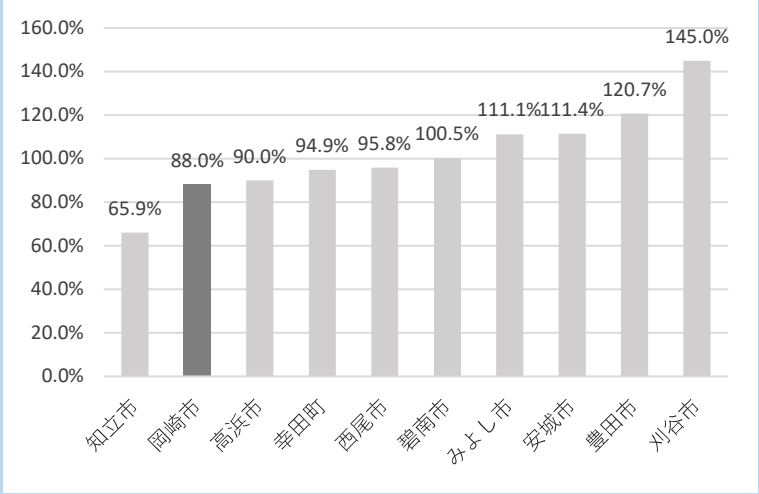
20代～30代の流入比率



出典：総務省「国勢調査（2015年）」、総務省「住民基本台長異動報告（2017年）」より作成

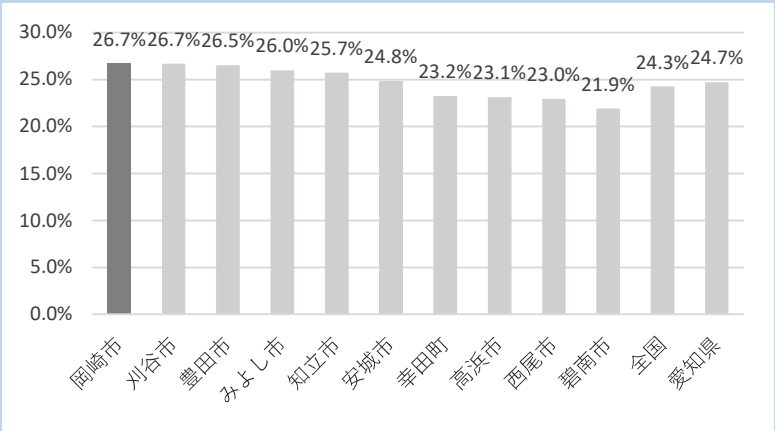
- 豊田市に次いで2番目の人口規模で、両市が中枢中核都市として内閣府から指定されている。
- その他では、15万人～20万人が3市、10万人未満が4市1町となっている。
- 20代～30代の流入比率では、西三河全域で60%を超える高い水準にあり、そのなかでも岡崎市は3番目に高い水準となっている。

就従比



出典：総務省「国勢調査（2015年）」より作成

専業主婦率



出典：総務省「国勢調査（2015年）」より作成

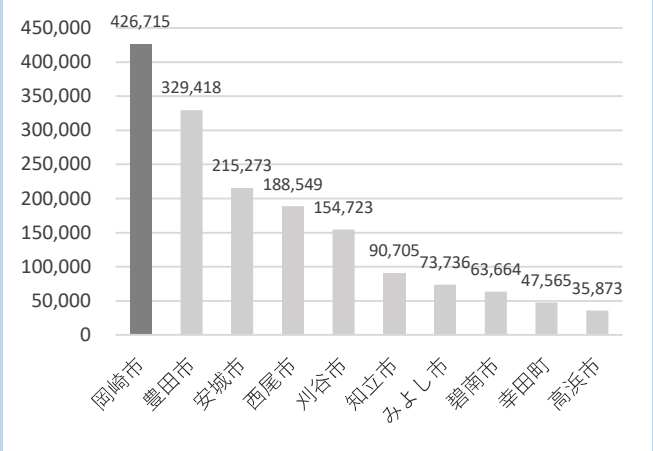
- 就従比（※）をみると、知立市に次いで西三河の中で2番目に低い。また100%を下回っており、**住宅都市としての性格が強い。**

※就従比：産業都市（業務地）・住宅都市という都市の基本的な性格を示す指標。
当地で従業する就業者数（従業人口）を当地に常住する就業者数（就業人口）で除して算出する。
100%を上回ると産業都市（業務地）、下回ると住宅都市の性格が強いことを示す。

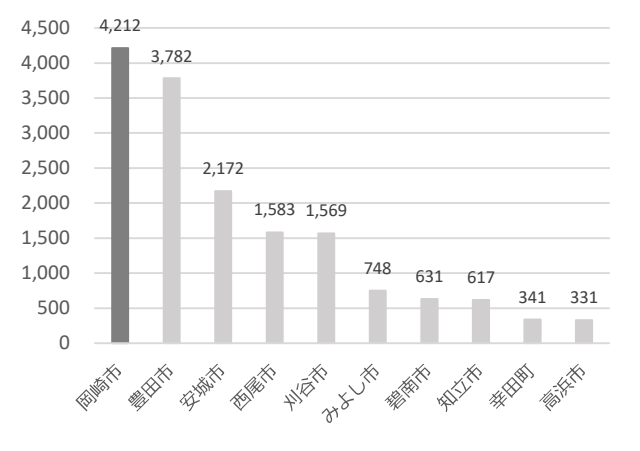
- 専業主婦率は西三河の中で最も高い。
- 全国や愛知県と比較しても2ポイント以上高くなっている。

【産業】

小売業年間商品販売額（億円）



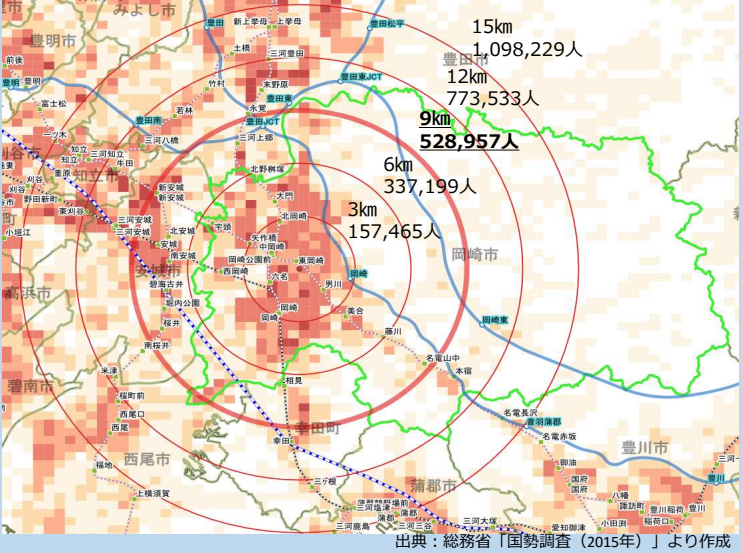
小売業の売場総面積（㎡）



出典：経済産業省「工業統計（2016年値）」、総務省「経済センサス（2016年）」より作成

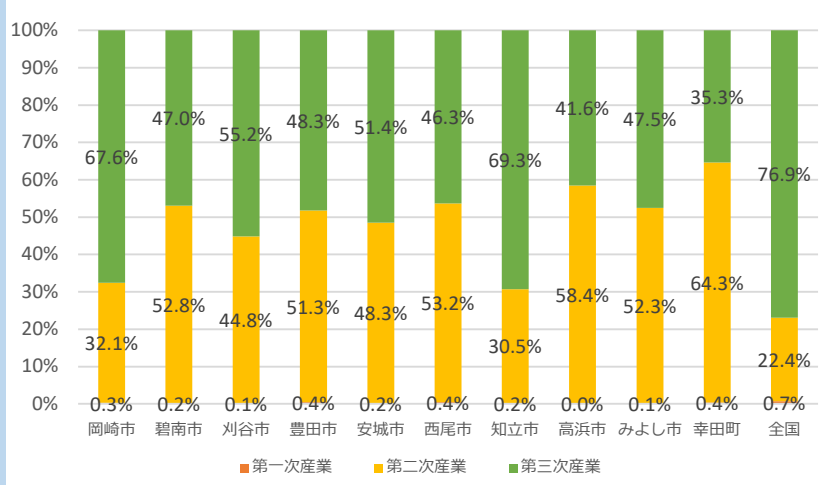
- 小売業年間商品販売額及び小売業の売場面積はどちらも西三河の中で最も高くなっている。
- 2番目に高い豊田市と比べて約1.3倍、安城市の約2倍となっており、**西三河の中で商業の中心を担っていることがうかがえる。**

人口重心からの距離別人口



出典：総務省「国勢調査（2015年）」より作成

産業別従業員割合



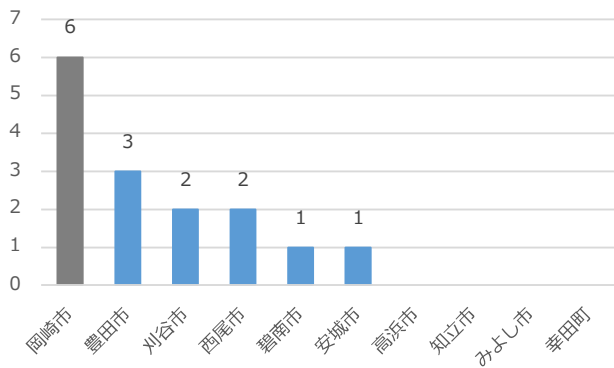
出典：総務省「経済センサス-活動調査（2016年）」より作成

- 産業別の従業員割合をみると、西三河の市の多くは製造業をはじめとする第二次産業の割合が非常に高い傾向にあるが、岡崎市においては、全国の傾向よりは高いものの、第二次産業の割合が低く、**第三次産業の割合が高い。**
- 製造業だけに依存せず、多様な産業構造を持っていることがうかがえる。

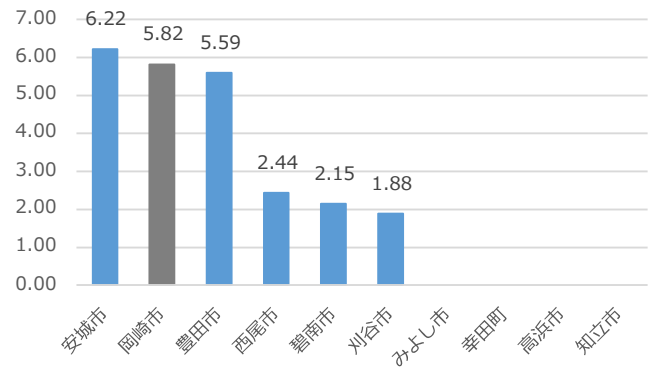
【観光・文化】

- 行祭事・イベント数をみると、岡崎市は西三河の中で最も多い。2番目に多い豊田市の2倍であり、魅力的な行祭事・イベントを多数開催していることがうかがえる。
- 行祭事・イベントの動員数の人口比をみると、安城市に次いで2番目に多く、毎年人口のおよそ6倍もの人が岡崎市を訪れていることがわかる。今後こうした人々を、ただ訪れるだけでなく、いかに消費行動につなげられるかが課題となっている。

行祭事・イベント数（動員数50位以内）



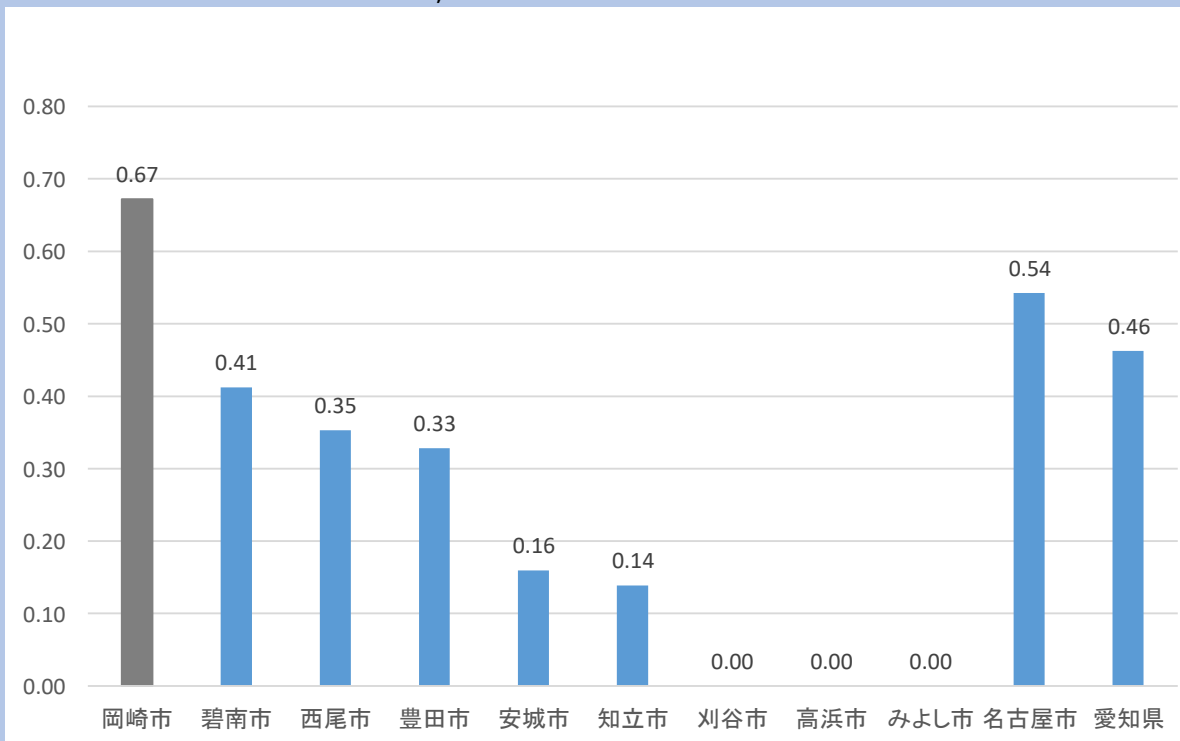
行祭事・イベント合計動員数（人口比）



出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計（2017）」より作成

- 国指定文化財件数をみると、人口10,000人当たりでは西三河の中で最も多く、名古屋市や愛知県より多い水準にある。多くの歴史資源を持っはいるものの、認知度はあまり高くないため、いかに有効に活用していくかが今後の課題となっている。

人口10,000人当たりの国指定文化財件数



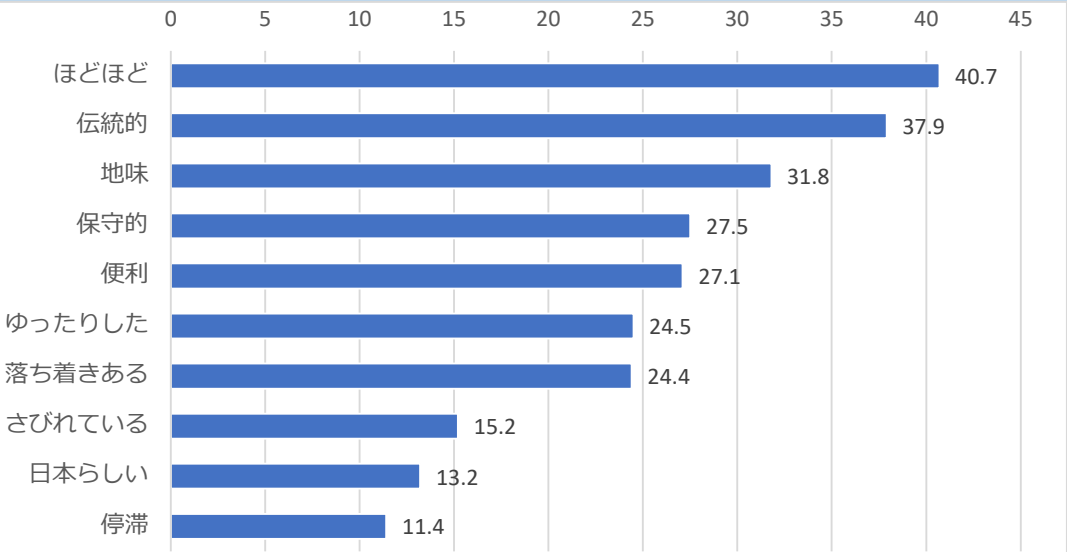
出典：愛知県「統計年鑑（2017）」より作成

市民の生活行動及びこれまでのまちづくり、未来のまちづくりに関する項目について、WEB上でアンケート調査を行った。（回収サンプル数1033件）

【市のイメージに関する項目】

都市をイメージする30のキーワードのうち、岡崎市に当てはまるものをみると、「ほどほど」「便利」「ゆったりとした」などが上位に挙がっており、派手さはないもののあまり不自由なく、市民意識調査での住みやすいと8割以上が回答した結果につながっていると考えられる。

岡崎市に当てはまるイメージ（上位10項目）

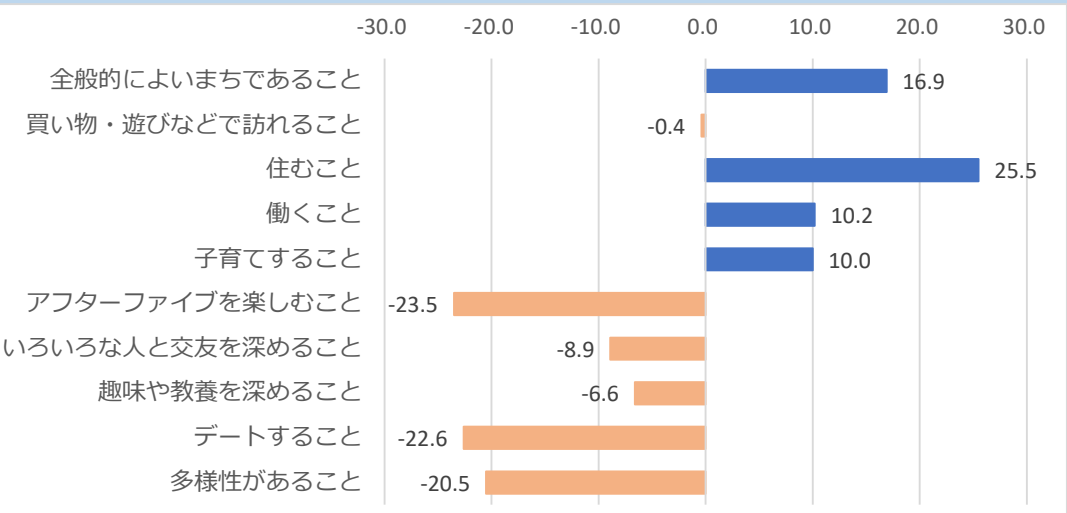


《参考》都市をイメージするキーワード30項目

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
伝統的	近代的	保守的	最先端	過密	ゆったりした	カオス（混沌として）	整然とした	にぎわいがある	落ち着いた	ハイセンス	ダサイ	派手	地味	国際的
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
日本らしい	クール・スマート	粋・人情的	成長	停滞	美しい	さびれている	レトロ・ノスタルジック	おしゃれ	ロマンチック	エネルギッシュ	ダイナミック	ほどほど	便利	眠らない都市

項目別に岡崎市のお勧め度合いをみると、「住むこと」「働くこと」「子育てすること」というまちで暮らしていくことに対してお勧め度合いが高いが、「アフターファイブを楽しむこと」「デートをすること」などまちで楽しむことに対するお勧め度合いが低い。

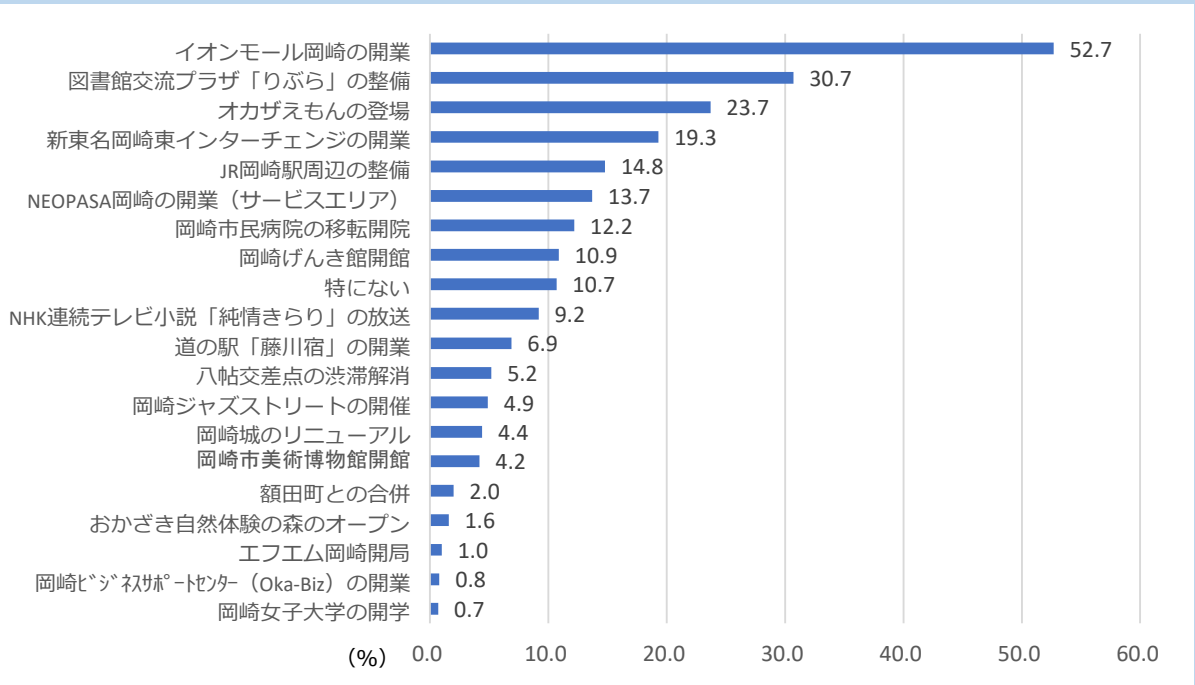
岡崎市の項目別お勧め度合い



【これまでのまちづくりと未来のまちづくりに関する項目】

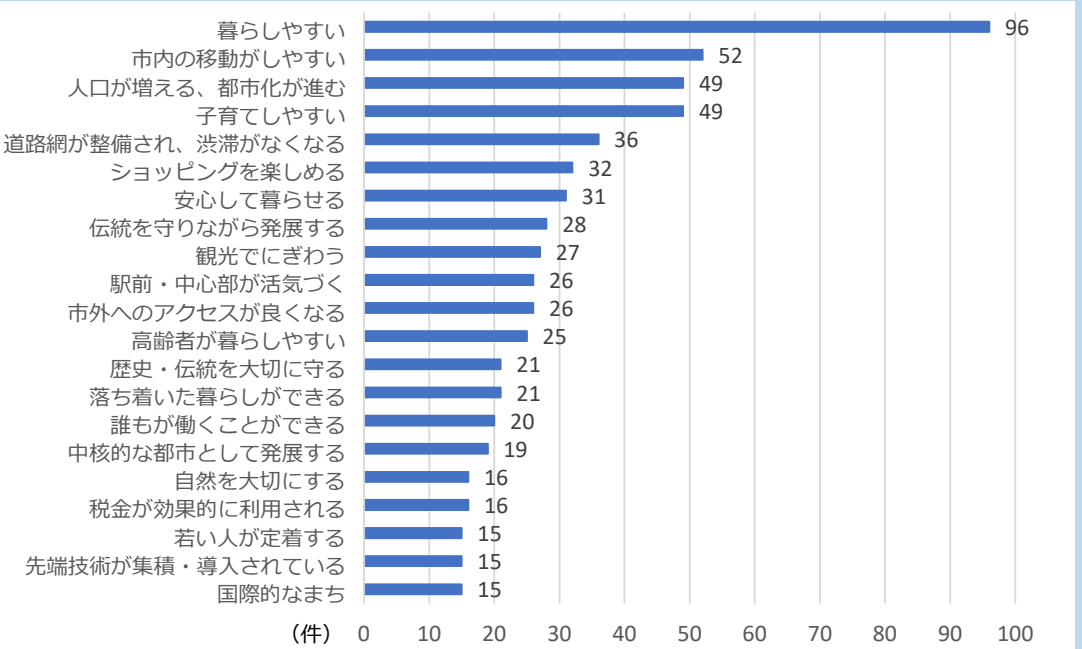
過去20年間のまちづくりで最もよかったと思うことは、「イオンモール岡崎の開業」が最も高く、回答者の52.7%が選択した。

過去20年間のまちづくりで最もよかったと思うこと



30年後のまちづくりに期待することは「暮らしやすい」「子育てしやすい」といったまちで暮らす基本的な項目が優先度が高い。続いて「ショッピングを楽しめる」「観光でにぎわう」といったまちで楽しむ項目が続くことから、市としてまず暮らしのベースをしっかりと固めたうえで、魅力的な要素を増やしていくことを期待していることがうかがえる。

30年後のまちづくりに期待すること



【高校生】

市内将来の自分の暮らしをイメージし、岡崎市でその暮らしを実現可能か問うアンケートを、市内高校に通う高校生1,300人を対象に行った。自由記入欄の内容により、「仕事系」「ボランティアや趣味系」「家庭生活系」に分類・整理し、それぞれ岡崎市での実現可否を集計した。

分類	率	内容	岡崎市での 実現可能性
仕事系	61.6%	将来の自分が仕事に打ち込んでいる姿を表現する記述が多かったが、右記のような具体的な回答も多くみられた。	実現可能 回答 72.3%
			実現不可能 回答 27.7%
ボランティアや趣味系	20.6%	仕事系の回答に比べて、どれも右記のような具体的な回答が多かった。	実現可能 回答 68.6%
			実現不可能 回答 31.4%
家庭生活系	17.9%	家庭での暮らしぶりについて表現する記述が多かったが、右記のような具体的な回答も多くみられた。	実現可能 回答 76.2%
			実現不可能 回答 23.8%

全体では、概ね3/4が将来思い描く自分の暮らしを実現するのは岡崎市でも実現可能と回答した。

【その他各ご意見】

総合計画審議会委員の専門分野以外で、介護保険運営議会や障がい者自立支援協議会などの各委員に対し、将来に期待することとその理由を聴取した。

将来に期待すること		その理由
介護保険運営協議会	定年年齢を引き上げ、退職後もさらに働ける環境を整っている。	負担と給付のバランスを保っていく解決策になると思うから。
	現在、始まったばかりの地域包括ケアシステムが順調に効果を発揮している。	このシステムが当たり前になっていけばよい社会になっていると思うから。
	自治体や小地域が、 個人を大切にしてい く仕組みを担っている。	AI活用で働き方や社会の状況が大きく変わっていると思うから。
障がい者自立支援協議会	お互いを支援しあえるインフォーマル支援中心の共生社会が実現している。	偏見やハードルもあるが、行政と地域で協働する流れを作っていけると思うから
	市民が今住んでいる所を大事にし、自分たちで補い合う意識が高まっている。	そういう意識のある住民の取組みを、市が支援していったほしいから。
	AIの進歩で、ハード面だけでなく心のバリアフリーも進んでいる。	高齢者が増加し、国全体で対応していけないと成り立たないと思うから。
環境審議会	本腰を入れて 住みよい街、訪れたい街を目指して発展している。	市内を二分する乙川でいい環境を作っていけるのではないだろうか。
	便利な文化生活を上手にコントロールし、自然や郷土を愛する心が育まれている。	施策や啓発に呼応して活動する人々が増えており、希望が持てるから。
	市街地のさらなる緑化で、緑の多い街に住めるようになっている。	広い駐車場の敷地などで、さらに緑化ができると思うから。
PTA連絡協議会	誰もが平等に恩恵の受けられるような住み心地の良い社会が実現する。	急激な技術革新が進む一方で、生活面、経済面での格差拡大が懸念されるから。
	食文化が多様化する中で、日本食が継承され、農業離れに歯止めがかかっている。	左記の理由ではないが、土に触れることのできる場所を残しておいてほしい。
	親・子供・先生が心に余裕をもち、よりよい教育でさらに学力が向上している。	様々な技術革新で心に余裕のある生活が送れるようになると思うから。

【不動産事業者】

市内および周辺市町で不動産を建築・購入者の特徴や考え方について市内不動産事業者4者にヒアリングした。各者、営業所の位置や価格帯などにより意見にばらつきが生じたため、共通的意见とその他特徴的意見に分類整理した。

各者共通的意见	その他 特徴的意見	
✓ 購入者は20代後半から30代中盤の乳幼児子育て中の世帯。 ✓ 購入者はトヨタ系従業員が多くを占め、消費税増税とリーマンショック以外は高需要維持。全国的にも稀な状況。 ✓ 購入に際して重視するのは、勤務地からの距離or夫婦どちらかの実家近く、価格、面積、小学校からの距離の順が多い。 ✓ 豊田・刈谷・安城より、まとまった住宅地の価格はお値打ちだが、幸田はさらに安価な印象。岡崎は価格・面積・商業等充実の観点で買い得感あり。 ✓ 鉄道依存度の高い関東圏や関西圏に比べて行政サービス水準で市町を選択する傾向はみられない。	<地域性>	<その他>
	✓ 東岡崎駅や岡崎駅の周辺は高値で、実家所有か高収入以外は選択できない傾向。以前に比べて、マンション需要者も含め、鉄道駅徒歩15分以内のこだわりは強いが、バスを意識する層はみられない。 ✓ 岩津地域と矢作地域の北寄り、豊田市への通勤者が多く、豊田市との価格比較で人気。 ✓ 矢作地域の南寄り、と六ツ美地域は、安城・刈谷方面への通勤者が多く、安城・刈谷との価格比較で人気。 ✓ 東部・大平地域は、域内勤務が電車で刈谷・名古屋勤務の方が多い。	✓ JR沿線と名鉄沿線では、刈谷通勤のしやすさが影響してJR沿線のほうが人気の印象。 ✓ （奥さんの）実家近くで物件を探す層が散見される。 ✓ コミュニティ未形成の区画整理等が好まれる傾向。 ✓ 土地に余裕があることで、平屋を希望する方が一定数いる。 ✓ 太陽光発電設備等の導入が前提となっている方が多いため、補助制度は積極的に活用されている。 ✓ 以前に比べると、独身で家を新築する方もみられる。

【現計画基本構想 今後の方向性】

市民生活・社会生活の実現

- 多様な主体の協働を図っていく方向性は継続しつつ、コミュニティごとに異なる課題について、オンデマンドで対応していく必要がある。
- コミュニティ組織の課題解決にあたっては、先進技術を積極的に活用し、人口構成の変化による担い手不足に負けない組織として生まれ変わる必要がある。

保健・医療・福祉

- 本基本政策は、保健衛生・地域医療・福祉（障がい者・高齢者・児童（子育て支援）・社会保障）など広範囲を対象としているが、より着実な進捗を図るため基本政策の分割を検討
- 分割や重点化の検討に当たっては、市民のライフステージごとで必要とされる行政の関わり方をイメージし、目指す姿を構築していく。

環境共生都市の実現

- この基本政策分野では、市民意識の啓発をもって環境行動を促すものが主だが、市民全体が実感できるスケールで施策を展開する点に留意していく必要がある。
- そのためには、森林環境税をはじめとする好機を十分活用しつつ、市民や企業の経済活動に沿って環境行動へ誘導し、持続可能性を高めていく取組みを進めていく必要がある。

経済の振興

- 目指す姿や取組の方向性は継続的に掲げつつ、QURUWA戦略等による各事業の進捗を起爆剤とし、公民連携手法を最大限活用し観光産業都市の実現に向けた取り組みを加速させる必要がある。
- 今後予想される大きな技術革新への対応力を高め、これまで日本をリードしてきたものづくり産業の継続的な成長と、観光産業都市の実現を合わせ、仕事にひきつけられ岡崎市に人が集まる方向性を明確にしていく必要がある。

都市基盤・生活基盤の整備

- 立地適正化計画を踏まえ、コンパクト+ネットワークを明示していく必要がある。
- 観光産業都市形成を念頭に、他分野と連携し起爆剤としてハード整備の進捗を図る必要がある。
- 人口増加傾向を踏まえ、従来の道路整備や公共交通による対策に加え、今後普及が見込まれるモビリティの新技术による対策を合わせて検討することで、方向性を再構築する必要がある。

教育・文化の振興

- 今後予想される大きな技術革新に伴い、社会的な価値観が大きく変わっていく時代を迎えつつあるため、これに対応する学校教育、家庭教育、社会教育のあり方を見直していく必要がある。
- 文化財活用目的や課題設定については、歴史的風致維持向上計画と整合を図り、観光産業都市実現のための効果を主眼に置く方向性を明確にする必要がある。

【次期指針 10年後の目指す姿】

<キーワード>

町内会高加入率・前期高齢者の活躍・多様な主体の協働・オンデマンド支援・新技术による課題解決(防災、交安、翻訳等)・外国人子弟の支援

産業レジリエンス・V字回復・自助共助互助体制の確立・新技术による災害情報の伝達検討・エネルギーの自産自消・インフラの強靱化

圏内完結医療体制の構築・医療連携体制の本格稼働・スマートウェルネス・後期高齢者の増加・3世代近居・福祉人材の確保・地域共生社会の実現

女性活躍社会・テレワーク等新たな働き方・えるぼし認定企業・放課後児童の居場所・学校施設&敷地の活用・幼児教育&保育の無償化・民間活用

持続可能な開発目標（SDGs）・世界首長誓約・西三河首長誓約・新電力会社による事業展開期・市民や企業の経済活動に沿った誘導策・森林環境税

観光産業都市化の延長線上に商業機能の集積・各投資を起爆剤・リノベまちづくり・様々なM I C E・OkaBiz・人材確保・働き方改革・女性、高齢者活躍

日本をリードするものづくり産業・工業団地・内陸型・住商混在・土地利用基本計画・事業承継・OkaBiz・人材確保・次世代産業の誘致

人口ピーク後を見据えた投資・長寿命化基本計画・コンパクトシティ・オールドニュータウン再生・空き家対策・モビリティ新技术の検討・6次産業化・ブランド化・森林環境税・耕作放棄地・管理放棄林

持続可能な人生100年社会・リカレント教育・自然科学研究機構・生きる力を育む教育・教員の働き方改革・学校施設、設備の役割整理

<個別計画>

市民協働推進計画
防犯活動行動計画
岡崎市交通安全計画
多文化共生推進基本指針 他

国民保護計画
地域防災計画
総合雨水対策計画
建築物耐震改修促進計画 他

健康おかざき21計画
(愛知県地域保健医療計画)
市民病院改革プラン
地域福祉計画 他

子ども・子育て支援事業計画
ウィズプランおかざき
DV対策基本計画

環境基本計画
生物多様性おかざき戦略
水環境創造プラン
地球温暖化対策実行計画 他

商工振興計画
観光基本計画
歴史的風致維持向上計画
歴史文化基本構想 他

商工振興計画

総合交通政策
緑の基本計画
住宅マスタープラン
森林整備ビジョン 他

21世紀教育ビジョン
21世紀教育ビジョン推進計画
生涯学習推進計画
スポーツ振興計画 他

<分類>

自治支援

防災・強靱化
推進

保健・医療
・福祉の充実

女性活躍支援
子育て支援

環境の
持続可能性向上

商業・観光産業
支援

ものづくり
支援

住環境・交通
・都市基盤の充実

生涯を通じた
教育の充実

